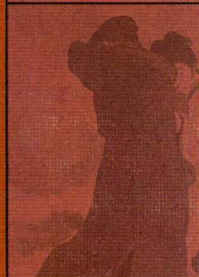


名作挿絵全集



1

明治篇



明治篇

名作挿絵全集 第一卷

発行日 一九八〇年七月十五日 初版第一刷

定価 一、三〇〇円

編集・発行人 下中邦彦

発行所 株式会社平凡社

東京都千代田区四番町四番地一
郵便番号一〇二一 振替東京八一二九六三九
電話 東京(〇三)二六五一〇四五(代表)

装丁 早川良雄

印刷 株式会社東京印書館

製本 和田製本工業株式会社

製函 永井紙器印刷株式会社

名作挿絵全集 全10巻

1 明治篇 ☆

2 大正・時代小説篇 ☆

3 大正・現代小説篇

4 昭和戦前・少年少女篇 ☆

5 昭和戦前・時代小説篇 ☆

6 昭和戦前・現代小説篇 ☆

7 昭和戦前・戦争小説篇

8 昭和戦前・推理怪奇小説篇

9 昭和戦後・時代小説篇

10 昭和戦後・現代小説篇

(☆ 既刊)

名作挿絵全集

第三卷

目次
名作挿絵全集 第三卷 大正・現代小説篇

●●●●

挿絵傑作選

I

池田蕉園 Ⅱ 6 ●池田輝方 Ⅱ 7 ●鏑木清方 Ⅱ 9 ●伊東深水 Ⅱ 11 ●寺島紫明 Ⅱ 13 ●
山川秀峰 Ⅱ 14 ●鏑崎英朋 Ⅱ 16 ●島成園 Ⅱ 18 ●北野恒富 Ⅱ 20 ●渡部審也 Ⅱ 22 ●
石井滴水 Ⅱ 24 ●清水三重三 Ⅱ 25 ●名取春仙 Ⅱ 26 ●岩田専太郎 Ⅱ 28 ●水島爾保布
Ⅱ 30 ●井川洗厓 Ⅱ 32 ●清水対岳坊 Ⅱ 34

「生さぬ仲」 柳川春葉作・鏑崎英朋画 35

「東京」 上司小剣作・石井鶴三画 43

「魔術師」 谷崎潤一郎作・水島爾保布画 49

「多情仙心」 里見 淳作・小村雪岱画 55

●●●●

挿絵傑作選

II

佐々木林風 Ⅱ 62 ●細木原青起 Ⅱ 63 ●高畠華宵 Ⅱ 65 ●加藤まさを Ⅱ 68 ●落谷虹児
Ⅱ 71 ●須藤 重 Ⅱ 73 ●岡本帰一 Ⅱ 74 ●田中 良 Ⅱ 75 ●初山 滋 Ⅱ 78 ●武井武雄
Ⅱ 80 ●一木 淳 Ⅱ 82 ●寺内万治郎 Ⅱ 83 ●名越国三郎 Ⅱ 84 ●山名文夫 Ⅱ 86 ●河野
通勢 Ⅱ 88 ●田中恭吉 Ⅱ 90

「馬賊の唄」 池田芙蓉作・高畠華宵画

91

「海の極みまで」 吉屋信子作・路谷虹児画

97

「第二の接吻」 菊池 寛作・田中 良画

103

●●●●

小説と時代Ⅲ 通俗小説の展開

尾崎秀樹

110

挿絵史展望Ⅲ 「生ける人間」を描く

渡辺圭二

118

田中 良 気品と誠実の画家

岡 保生

123

高畠華宵 美少年を描く抒情画家

二上洋一

130

●●●●

「華宵事件」の真相

鹿野琢見

127

ニュー・メディアとしての『キング』の一生

鈴木 均

134

●聞き書●松本かつぢ「路谷さんのこと、抒情画のことなど」

138

大衆文化史Ⅲ 姦婦から殉教者へ

山本 明

140

●●執筆者紹介

145

挿絵傑作選

I

池田蕉園

岩田専太郎

池田輝方

水島爾保布

鍋本清方

井川洗屋

伊東深水

清水対岳坊

寺島紫明

石井鶴三

山川秀峰

小村雪岱

鯨崎英朋

島 成園

北野恒富

渡部審也

石井滴水

清水三重三

名取春仙

池田蕉園

東京生まれ。旧姓榊原百合子。池田輝方夫人。水野年方、田舎玉堂に師事し、美人画を得意として初期文展で活躍した。また『東京日日新聞』の小説挿絵や『少女画報』の口絵に筆を揮い、上村松園、島成園ら

とともに閨秀画家として名を馳せたが、二十九歳で夭折した。挿絵の代表作に輝方とともに描いた「誘惑」など。

(いけだ・しょうえん／一八八八―一九一七)



落椿 『少女画報』明治45年4月号口絵



春待つ心 『少女画報』大正4年12月号口絵



おくり物 『少女画報』大正3年12月号口絵



窓 『少女画報』大正4年7月号口絵

池田輝方

東京生まれ。本名正四郎。幼い頃より絵を好み、水野年方、川合玉堂について日本画を学ぶ。院展、文展、帝展に出品し、浮世絵系の風俗画で評判を得る一方、明治三十四年に鶴木清方らと烏合会を設立、大

正八年には石井林響、山内多門らと如水会を結成している。挿絵の代表作に徳田秋声作「誘惑」、中村星湖作「かくれ沼」など。

(いけだ・てるかた／一八八三―一九二二)



出湯の雨 『文芸倶楽部』大正6年3月号口絵



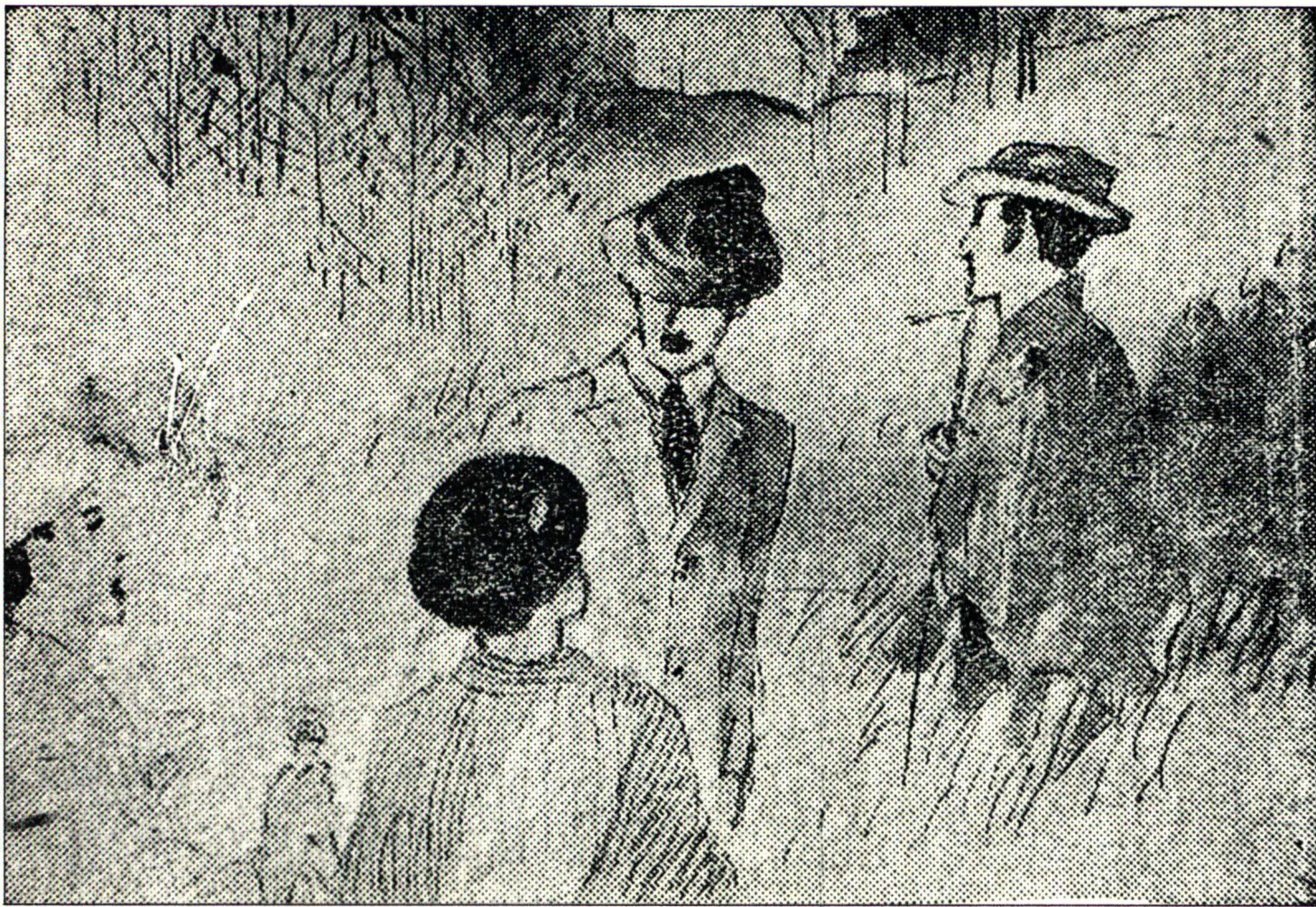
春愁 『娯楽世界』口絵



『娯楽世界』口絵



画の前に立ちて 『婦女界』大正8年3月



中村星湖作「かくれ沼」 大正8～9年東京朝日新聞連載



「かくれ沼」



徳田秋声作「誘惑」 大正6年大阪毎日・東京日日新聞連載



「かくれ沼」

鏑木清方

東京神田生まれ。本名健一。父は戯作者でやまと新聞創立者の条野探菊。十四歳で水野年方入門、十七歳で挿絵界にデビューした。明治後期から大正初期にかけて、挿絵界のスターとして活躍し、「金色夜

叉」「風流線」などを残している。平福百穂らと大正五年に金鈴社を創設、その後、「にぎりえ」など自ら「卓上芸術」と称した文学的小品と美人画の制作に専念した。（かぶらぎ・きよかた／一八七八―一九七二）



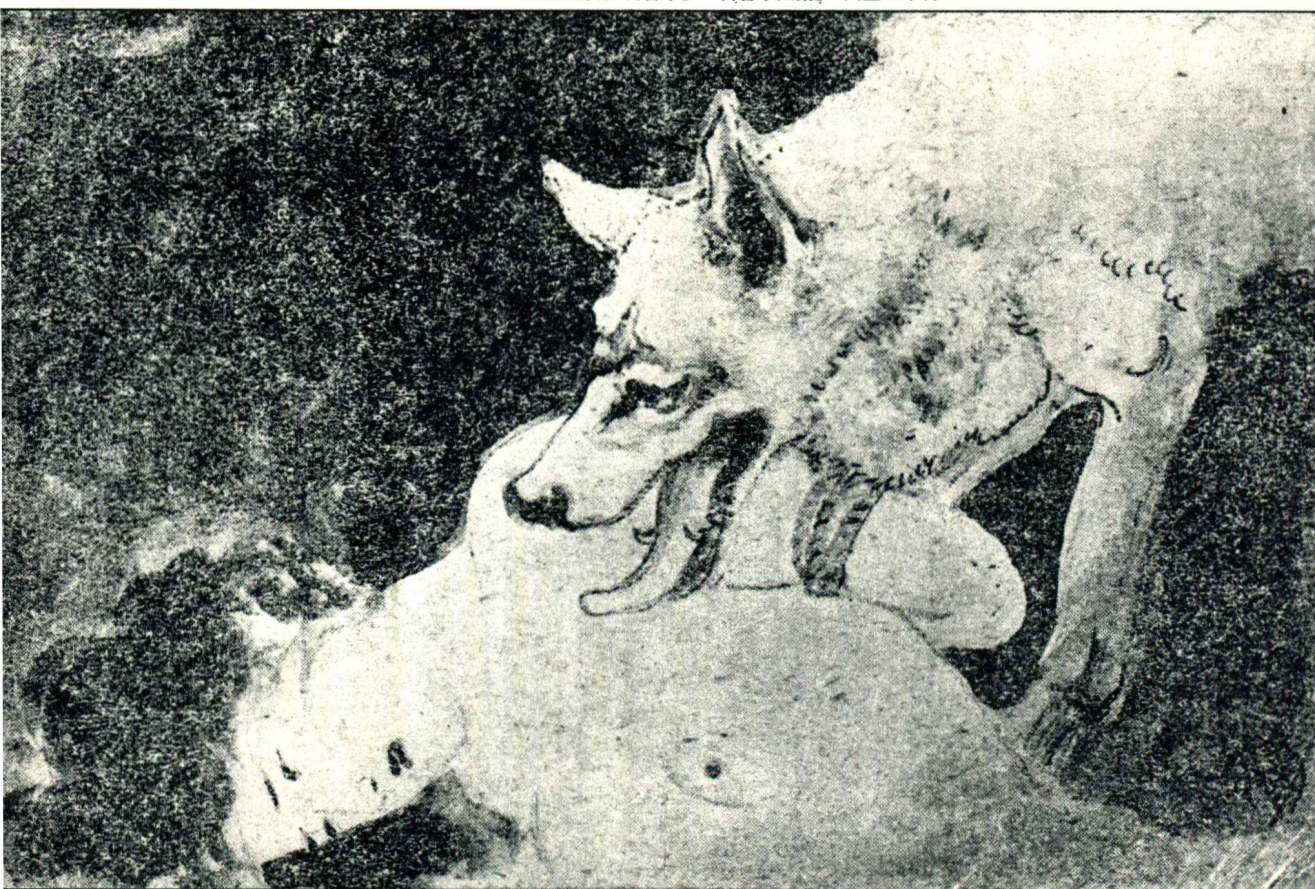
菊池幽芳作「毒草」 大正5～6年



菊池幽芳作「小ゆき」 大正3～4年



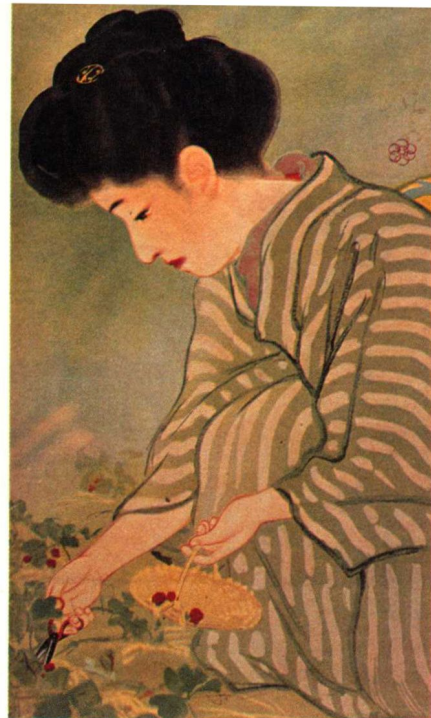
菊池幽芳作「百合子」『百合子画集』 大正3年刊



「毒草」（「毒草」「小ゆき」とも大阪毎日新聞連載）



「渦巻」口絵



菜園の紅玉 『家庭雑誌』大正4年6月号口絵



渡辺霞亭作「渦巻」口絵 大正2年刊



新年言志 『婦人倶楽部』大正13年1月号口絵



出湯の朝 『文芸倶楽部』大正6年4月号口絵

伊東深水

東京深川生まれ。本名一。十三歳で画才を認められ、鏗木清方の門に入る。大正五年頃から末年にかけて、新聞・雑誌の挿絵、口絵版画に専念し、橋口五葉、川瀬巴水らとともに新版画運動に参加した。昭和

二十五年、児玉希望と日月社を結成、後進の育成にあたるかたわら、美人画を中心に制作を続けた。代表作に鶴見祐輔作「母」「子」、田山花袋作「銀盤」など。
(いとう・しんすい／一八九八―一九七二)





菊池幽芳作「女の生命」 大正7～8年大阪毎日・東京日日新聞連載



田山花袋作「銀盤」 大正10～11年読売新聞連載



沖野岩三郎作「悲みの極み」 大正13年「婦人倶楽部」連載



佐藤紅緑作「幸福物語」 大正14～15年「婦人倶楽部」連載

寺島紫明

兵庫県明石市生まれ。本名徳重。幼少より絵と文学に親しみ、大正二年鶴木清方入門。挿絵・口絵を描きながら帝展、文展、日展などに出品した。昭和十五年には清方門下生を集め、清流会を組織したが、

画風は一貫して、師清方とは異なる官能性、重量感を追求した。掲載作のほか代表作として近松秋江作「断雲」など。
(てらしま・しめい／一八九六―一九七五)



成田尚作「夜行列車」『新青年』大正14年4月号



初詣 『文芸倶楽部』大正14年1月号口絵



春の海辺 『講談雑誌』大正13年1月号口絵



『文芸倶楽部』大正15年1月号表紙

山川秀峰

京都生まれ。本名嘉雄。花鳥画を池上秀畝に、人物画を鍋本清方に学び、清方門下では東の深水、西の秀峰と謳われた。また伊東深水とは青衿会を創設し、近代美人画の開拓に努めた。挿絵界では『文芸倶楽部』

部』『講談雑誌』などを舞台に、大正から昭和はじめにかけて活躍し、代表作に野村胡堂作『銭形平次捕物控』の連載初期の挿絵がある。

(やまかわ・しゅうほう／一八九八―一九四四)



春浅し(名所合せ十二集の内・洲崎廓の裏) 『文芸倶楽部』大正10年5月号口絵